

公立大学協会

一般社団法人公立大学協会ニュースレター Vol.8/No.1

2013年5月22日発行（通刊第29号）

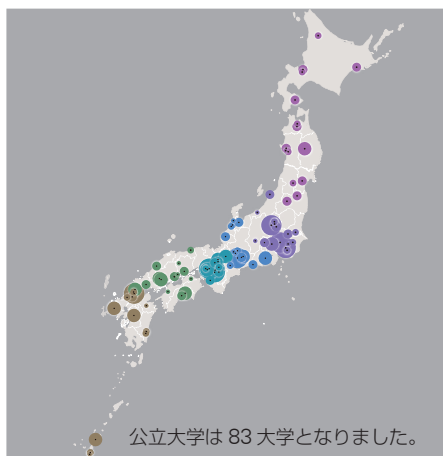
【発行責任者】奥野 武俊（一般社団法人公立大学協会会長／大阪府立大学長）

【編集責任者】中田 晃（一般社団法人公立大学協会事務局長）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-8 郵政福祉虎ノ門第2ビル2階

TEL(03)3501-3336 FAX(03)3501-3337

E-mail: jimuj@kodaikyo.jp URL: http://www.kodaikyo.org/



公立大学は83大学となりました。

平成24年度の公立大学の質保証に関する特別委員会の議論を終えて

公立大学協会会長 奥野 武俊(大阪府立大学長)

公立大学協会は、平成24年度、現行の認証評価のあり方の調査・検討を、公立大学の質保証に関する特別委員会（以下、特別委員会）のもと、進めてまいりました。「場合によっては、協会独自の認証評価機関（以下、評価機関）を立ち上げる」ことを念頭に置いたスタートでしたが、一年経った今、我々の検討結果は大学評価関係者に対し一石を投じることができたのではないかと考え、新しいステージに踏み出したいと思えます。

検討で明らかになった課題

公立大学教職員の皆さんとは、計4回開催した高等教育フォーラムにおいて、総務省、文部科学省、評価機関等の方々も交え、認証評価を様々な切り口から議論するとともに、地区協議会や学長会議においても評価制度が抱える課題を共有し「公立大学にふさわしい認証評価」を検討してきました。

その過程でまず明らかになったことは、評価機関と受審大学の間における、認証評価をめぐる意識のずれの違いでした。例えば、「公立大学特有の課題について説明しても理解が得られない」と不満を持つ大学に対して、評価機関は「大学の評価は普遍的で、実績ある評価委員が公平に評価している」とします。このずれの違いを積極的に克服するためには、公立大学の地域に根差す教育機関としての特徴を評価基準等になんらかの方法で位置づけた評価が必要です。

また、公立大学法人評価と認証評価についての関係整理の必要性も明らかになり、具体的には、地独法第79条で定められている「認証評価結果を踏まえる」方法が各法人評価委員会で様々であること、2つの評価作業の重複負担があることの解消が求められています。これについては、法人評価と認証評価が、相互に参照できる報告書フォーマットを提案し、今後その有効性について調査・検証することとしています。

ワークショップで継続した対話を

また、議論の過程で、評価者が受審大学を支援する視点で行う評価への要望が寄せられました。

そこで、新たな試みとして、公立大学関係者による評価ワークショップを実施しました（次ページ参照）。そこでは、公立大学特有の事情を踏まえた率直かつ厳しい意見交換が行われ、そのような議論は評価する側・される側の継続的な対話（コミュニ

ケーション）があれば、むしろ大学を支援する観点での評価につながることで見えてきました。

新たなセンターの設置へ

平成25年4月の理事会において、平成25年度はこれまでの検討を継承するべく特別委員会を発展的に改組し、その機能を引き継ぐ「公立大学政策・評価研究センター」を設置することを決定いたしました。

同センターを中心に、公立大学の質保証やマネジメントを担う教職員のネットワークを築きながら、引き続き、公立大学の政策やその評価のあり方の研究、さらに評価機関に対する提言や評価ワークショップでの評価の試行等を行う予定です。

このセンターが公立大学のコミュニティとしての機能を発揮し、豊富な評価経験の蓄積を礎に、評価人材の育成や、公立大学法人評価についてのモデルを構築できるように、今後の発展に期待しています。



第4回高等教育改革フォーラム開催報告

2月22日(金)、学士会館にて、「公立大学の地域貢献・地域連携機能の充実とその評価～2つの公立大学における評価ワークショップの結果を踏まえ～」をテーマとして、開催されました(参加128名)。



パネルディスカッションでは清原正義兵庫県立大学長(写真左)を司会に、活発な意見交換が行われた。

このフォーラムでは、1月下旬に「公立大学の質保証に関する特別委員会」が行った評価ワークショップ(以下、評価WS)の成果を踏まえて、公立大学が地域の知の拠点としての機能を鮮明に示すことのできる評価のあり方を議論しました。

議論に先立ち、総務省地域自立応援課・牧慎太郎課長及び文部科学省大学振興課・池田貴城課長より、地域と大学の連携施策に関する両省の事業をご説明いただきました。いずれの事業にも、大学の教育研究が地域振興・地域活性化に果たす役割に対し大きな期待が込められていることがうかがえました。

続くパネルディスカッションでは、評価WSを受け入れた2大学の、香取薫・青森公立大学長と大田啓一・滋賀県立大学長を囲み、会場とディスカッションしました。

これまでの議論において、公立大

学の評価を公立大学関係者が行うことは公平性・客観性を欠くのではないかという評価機関側からの懸念も出ておりました。これに対し、今回の評価WSに参加した森正夫相談役からは、大学評価・学位授与機構にて専門委員を長年務めた経験を踏まえた上で「公立大学についてよく理解し、日々公立大学の中で活動している方が集まった評価WSであったがゆえに、むしろ根拠のある厳しい意見が多く出た。今回は地域貢献を扱ったために、その地域の特色を考慮しながらも客観性を欠くことのない意見交換ができたのかもしれない。他のテーマにも応用できる経験を得たと実感している」との発言がありました。

そのほかにも、「関係者がフォーラム等で一堂に会し評価について議論を行うこの場こそ、評価コミュニティと呼んでもよいのではないか」「既存

の評価制度を前提にした検討・議論だけでなく、本当に有効な評価とは何かという原点に立ち返り、大学の評価の在り方を多角的に考えたい」など、今後の検討の方向性を示唆する意見が聞かれました。

最後に奥野会長から、「次年度は、公立大学の政策・評価を研究する組織を協会内に立ち上げて、これまでの評価に関する検討をさらに進化させていきたい」との発言があり、会が締めくくられました。

評価ワークショップ開催報告

滋賀県立大学(1月29日)、青森公立大学(1月30・31日)の協力を得て、評価ワークショップを実施しました。

地域貢献と地域での学生の学びを両立させる先進的なプログラムとして、青森公立大学には新たな学科としての「地域みらい学科」が、滋賀県立大学には副専攻過程として「近江楽土」(学士課程の副専攻)と「近江環人地域再生学座」(修士課程の副専攻)が置かれています。

今回は、数名のワークショップ実施チームが協力大学を訪問し、地域貢献に関する取組みを学びながら、地域貢献及び評価に関する課題について協力大学の学長や地域貢献及び評価に携わる教職員とともにディスカッションを行いました。主な内容は以下のとおりです。

■ 滋賀県立大学

<地域貢献の課題について>

- 副専攻プログラムは全学共通の取組みとして進めている。カリキュラムの都合上、取り組むのが難しい学部もあるが、課外活動型に多くの参加が見られ、結果として幅広い学生に取り組まれている。
- 地域研究を行っている学科は学生の送り込みに慎重にならざるを得ないが、先導的に地域貢献に取り組む、大学全体をけん引するよう

プログラム (敬称略)

第4回高等教育改革フォーラム

「公立大学の地域貢献・地域連携機能の充実とその評価～2つの公立大学における評価ワークショップの結果を踏まえ～」

2013年2月22日(金) 13:30～17:00 学士会館(東京都千代田区)201号室

○挨拶・趣旨説明 奥野武俊 会長

○講演 ①「域学連携」地域づくり施策について

総務省地域力創造グループ地域自立応援課 牧慎太郎 課長

②「地(知)の拠点整備事業—大学COC(Center of Community)事業について—

文部科学省大学振興課 池田貴城 課長

○パネルディスカッション

パネリスト: 香取薫 青森公立大学長、大田啓一 滋賀県立大学長、奥野武俊 会長、木苗直秀 副会長

司 会: 清原正義 兵庫県立大学長

な役割も期待される。

<評価の課題について>

- 正規課程内外の地域における教育効果が高いことはアンケート結果でも明らかであり、教育と地域貢献それぞれの評価基準に分解せず、一体としての評価が必要。
- 法人評価委員会で、踏まえらるべき認証評価結果が未だ参考資料としておかれるに留まっている。
- 大学の基礎データを常に情報公開すれば、評価準備は簡素化できる。



キャンパス内を見学（滋賀県立大学）

■ 青森公立大学

<地域貢献の課題について>

- 自治体と大学との連携はテーマと期間を定めて事後評価を行うことで、「名ばかりの連携」としない工夫を行っている。
- 行政の力だけでは街づくりは難しい。学生だからできることもある。私たちは自分たちの活動に誇りを持っている（学生意見）。
- 企業出身で実践豊富な教員が抱いた「地域づくりの視点や経験を学生に継承したい」という思いが、地域みらい学科の開設につながった。
- 地域みらい学科の「地域」は、ローカルと限定するのではなく、世界に通用する「地域課題の解決方法や手段を発見すること」と定義づけている。

<評価の課題について>

- 特別委員会が提案する評価フォー

マットは、基準ごとに1枚でまとめる方法であるが、シンプルかつ十分でないか。

- 評価委員に公立大学関係者が多いと相互理解が深まると感じた。公平性の担保のためには、認証評価の議論を公開とするような手段も考えられる。
- 地域貢献については、実際の現場へ出向かないと、各大学の特色が明らかになる評価ができないとも感じた。



学生も交えディスカッション（青森公立大学）

平成 24 年度評価担当者懇談会

2月22日（金）、学士会館にて、評価の実務にかかわる担当者を対象とした認証評価及び法人評価に関する課題を共有し自由に協議する「評価担当者懇談会」を試行的に実施しました。

浅田尚紀第3委員会委員長の挨拶に続き、話題提供として、公立大学の質保証に関する特別委員会より中田晃事務局長が「法人評価と認証評価の課題（相互参照の仕組みづくり等）」を、大学評価・学位授与機構の小笠原千寿評価企画課長より「第2期国立大学法人評価の改革について」の説明がありました。

グループ協議では、法人評価における実施上の課題や、中期目標期間の評価における認証評価の踏まえ方、評価担当者の研修、評価の検討に関



教職員が議論を行い、結果を共有しました

する協会への要望などを中心に話し合われました。

事後アンケートでは、「制度そのものについて説明を受ける機会がなかったのが、参加してよかった」「各大学での法人評価の取組み方を聞くことができ、参考になった。このような機会が定期的に開催されるとよいと思う」など、引き続きの開催を期待する声が多く聞かれました。

大学 IR コンソーシアム参加説明会

大学 IR コンソーシアム参加説明会を、2月18日（月）（大阪）・22日（金）（東京）に開催し、2会場合計で14大学16名の参加がありました。

同コンソーシアムでは、各参加大学共通のフォーマットで学生アンケートを実施し、回答を独自のIRシステムを用いて集計及び分析しています。コンソーシアムに参加する各大学は、その結果を学修のアウトカムやプロセスを評価するツール等として活用し、教育課程の充実に展開することができます。集計結果は他の参加大学との比較も可能とのことです。

説明会では、大阪府立大学高橋哲

也副学長より内部質保証を取り巻く状況や大阪府立大学の活用事例について、また同志社大学宮田尚子専門調査員からシステムの内容等についての説明がありました。

コンソーシアムへの参加申込み期限は9月末です。詳細は大学 IR コンソーシアム HP (<http://www.irnw.jp/>) をご覧ください。



大阪府立大学・高橋副学長からは、同大の1年生から3年生にかけての「授業・授業外学習の状況」の変化などが説明されました

訃報

去る2月14日、国際教養大学長・中嶋嶺雄先生が逝去されました。

中嶋先生は、本協会において、理事（平成17・18年度）、顧問（平成19・20年度）を務められました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

就活解禁に関し下村文科大臣から要請がありました

安倍晋三首相が経済界に就職活動の解禁繰り下げを要請したことを受け、下村博文文部科学大臣は本協会ほか大学団体の代表を招き、学生に不安と混乱が生じないように丁寧な対応を取るよう要請しました。

奥野会長は「公立大学は地域との密着度が高く、学業と地域性を両立する教育をこれまでも行っている。この件に関し不安感を抱く学生につい

ては、大学としてもケアしていきたい」と意見を述べました。



下村大臣にを説明する奥野会長（左から2人目）

協会事務局にて研修職員受入制度を開始しました

2月7日に行われた第4回理事会において、会員校から協会事務局へ研修を目的として、出向職員を受け入れる規程等が整備されました。

* * *

■受入期間

派遣元大学と相談の上で決定する。(短期・長期、プロジェクト単位の受け入れも可能。文部科学省研修派遣との連携も応相談)

■職務内容

各種ワークショップ、研究会など、プロジェクト型事業の企画運営及び、日常的な渉外業務を中心に担当。

研修中は、日常の協会業務のサポートのほか、事前に提出いただくそれぞれの獲得目標を参考に、評価に関する事業、協議会やセミナーの企画・運営、公立大学に関する資料の作成等から担当業務を選び、協会職員とともに携わっていただきます。

協会事務局が移転しました H25.5.13 より

新事務所では、事務局機能に、評価等に関する研究拠点や会員校の交流拠点としての機能を付加し、府省関係者や高等教育研究者等を講師に迎え小規模の勉強会等も随時開催する予定です。

新所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-8 郵政福祉虎ノ門第2ビル2階 (東京メトロ銀座線虎ノ門駅から徒歩6分、文部科学省から徒歩7分)

*電話・FAX 番号は変更ございません



公立大学協会の主な活動の記録

(H25.1.1 ~ H25.4.30)

役職名組織名は全て日付当時

1月

- 9日(水)★会長(平成25・26年度)候補者選考委員会〔公大協事務局〕
- 15日(火)★第5回高大接続特別部会(近藤副会長出席)〔文科省〕
- 18日(金)★大学分科会傍聴〔文科省〕
- 21日(月)★第4回大学設置認可の在り方の見直しに関する検討会傍聴〔文科省〕★中教審総会傍聴〔文科省〕
- 22日(火)★第2回 UMAP 日本国内委員会出席〔一橋講堂〕
- 29日(火)★評価 WS〔滋賀県立大学〕★医学部病院長会議傍聴〔文科省〕★歯学部病院長会議傍聴〔文科省〕
- 30日(水)★公立大学協会会長候補者に関する郵便投票の開票〔公大協事務局〕
- 30日(水)、31日(木)★評価 WS〔青森公立大学〕

2月

- 1日(金)★全国公立大学設置団体協議会 研修出席〔にぎたつ会館〕
- 7日(木)★第7回運営会議★第4回理事会★第5回委員会(合同会議)〔メルパルク東京〕
- 18日(月)★大学 IR コンソーシアム参加説明会〔キャンパスポート大阪〕
- 22日(金)★評価担当者協議会★大学 IR コンソーシアム参加説明会★第4回高等教育改革フォーラム〔学生会館〕

3月

- 1日(金)★「地(知)の拠点整備事業」説明会出席〔学術総合センター〕
- 3日(日)★新見公立大学新校舎竣工式出席〔新見公立大学〕
- 6日(水)★地域実践活動に関する大学教員ネットワーク・フォーラム出席〔政策研究大学院大学〕
- 9日(土)★第10回大学評価学会出席〔龍谷大学〕
- 12日(火)★第3回就職問題懇談会(伊藤理事出席)〔文科省〕
- 13日(水)★大学基準協会 大学評価シンポジウム出席〔文京学院大学〕
- 17日(日)★国際教養大学中嶋嶺雄学長大学葬(奥野会長、中田事務局長参列)〔国際教養大学〕
- 21日(木)★大学評価・学位授与機構セミナー出席〔学術総合センター〕
- 25日(月)★第4回大学ポートレート(仮称)準備委員会(代理 清原学長出席)〔学術総合センター〕

4月

- 8日(月)★第1回運営会議〔大阪府立大学 I-site なんば〕
- 15日(月)★第1回理事会〔メルパルク東京〕
- 17日(水)★大学基準協会 実務担当者説明会出席〔明治大学〕
- 18日(木)★文部科学省「地(知)の拠点整備事業」公募説明会出席〔文科省〕
- 22日(月)★下村文部科学大臣訪問(奥野会長出席)〔文部科学大臣室〕
- 24日(水)★国公立大学を通じた大学教育改革の支援に関する調査検討会議(奥野会長出席)〔文科省〕★第6回高大接続特別部会(近藤副会長出席)〔ホテルフロラシオン青山〕

事務局より

研修職員・照屋信次さん(名桜大学より)を受け入れ、協会事務局が移転するなど、事務局にとって新しい動きが2つありました。文部科学省に近い新事務所にお気軽にお立ち寄りください。